

ノーリフティングケアで叶う！ 家族の思い

介護複合施設ひばり
BEST GROUP
可能性は無限大！ 社会福祉事業のベストグループ

(1) これまでのノーリフティングケアの取り組み

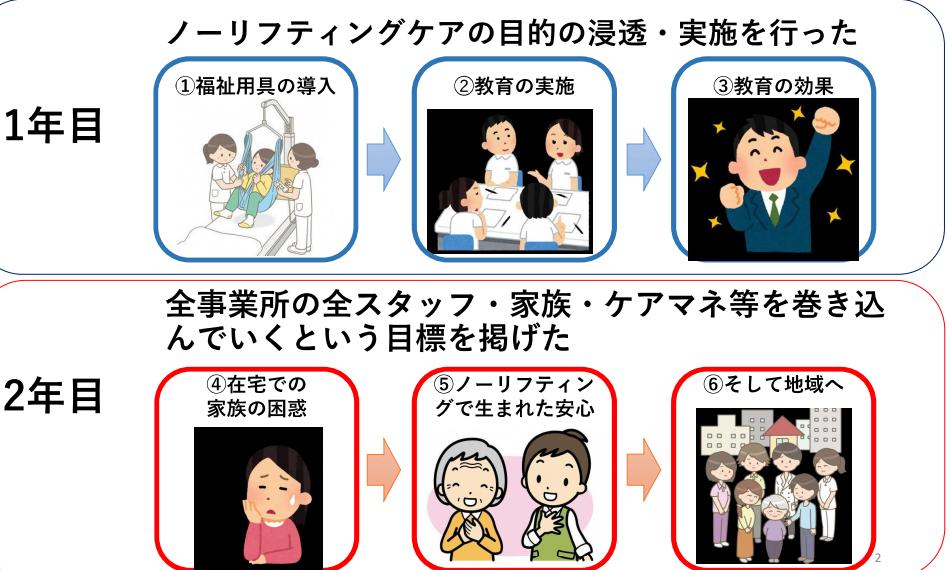
・リスクアセスメントの実施

腰痛保持者の対応策検討・実施	アセスメントプランニング視点の見直し	福祉用具の導入・管理	日々のリスク抽出
----------------	--------------------	------------	----------

・腰痛アンケート調査の実施



・移乗動作の際に特に腰部への負担（リスク）が大きくなっている



・リスクアセスメントの実施結果を元に福祉用具を導入

入浴での移乗動作

- ・分離型シャワーチェア
- ・天井走行型リフト

トイレでの移乗動作

- ・スタンディングリフト
3台

ベッド周りの移乗動作

- ・床走行式リフト 3台
- ・トランスクーラー 3枚
- ・スライディングシート 3枚



・ノーリフトティングケア研修の実施

- 正しい身体の使い方で



- 双方が安心安全に



- 福祉用具の適切な使用



- 全職員が、利用者の状態に応じて
福祉用具の提案、活用ができる



・計画的に実施

11月	12月	1月	2月	3月
火	木	水	日	木
水	金	木	月	金
木	土	金	火	土
金	日	日	水	日
年間スケジュール				
12月1日	12月3日	12月5日	12月7日	12月9日
12月12日	12月14日	12月16日	12月18日	12月20日
12月19日	12月21日	12月23日	12月25日	12月27日
12月28日	12月30日	1月1日	1月3日	1月5日
1月8日	1月10日	1月12日	1月14日	1月16日
1月19日	1月21日	1月23日	1月25日	1月27日
1月28日	1月30日	2月1日	2月3日	2月5日
2月18日	2月20日	2月22日	2月24日	2月26日
2月27日	2月29日	3月1日	3月3日	3月5日

(2) 2年目の目標

全事業所の全スタッフ・家族・ケアマネ等を巻き込んでいく

① 在宅介護の支援

② 他事業所への研修

・ノーリフトティングケアの効果

・得られた効果

入浴での移乗動作

- スタンディングリフト+分離式シャワーチェア+天井走行型リフトの組み合わせで使用
- 「抱え上げ」「持ち上げ」「引きずる」等を伴う介助がなくなった
- 利用者が安楽に浴槽につかれるようになった



トイレでの移乗動作

- スタンディングリフトを使用することで、人力のみによる介助が著しく減少



ベッド周りの移乗動作

- スタンディングリフト、床走行式リフト、ランスファーボード、スライディングシート等の活用で人力のみによる介助はほとんどなくなった

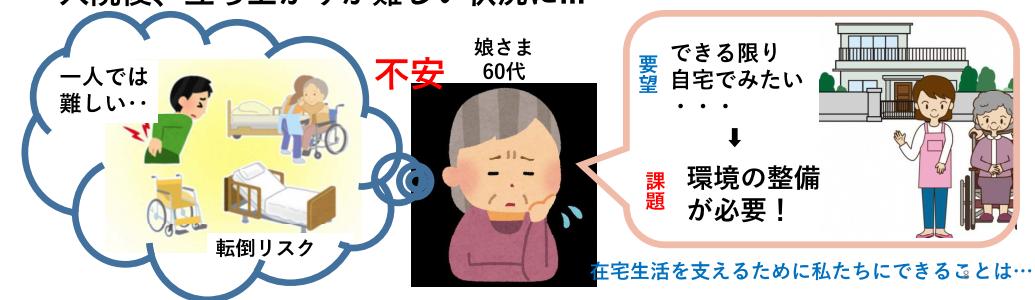
① 在宅介護を支援（事例）

Sさん 女性 86歳

既往歴：脳梗塞（左半身不全）麻痺

手すりをつかんでの立ち上がり→短時間であれば可能であったが、

入院後、立ち上がりが難しい状況に…



① 在宅介護の支援

ケアマネージャーを巻き込み、自宅の環境を改善



送迎時に用具の使用方法を家族に伝達！

家族の声

「最近腰も痛くて、家で見れないんじゃないかなと思っていたけどこんなものがあるんやね。
身体も楽になったし、お母さん落とす心配もないし、まだ家でみてあげられる」⁹

② 他事業所への研修

(I) 筋ジストロフィー症支援に対する研修

- 特別支援学校の先生からの依頼を受けて、ノーリフティング委員会主催の福祉用具（ボード、リフト、スタンディングマシン、シート）を使った実技体験会を開催

特別支援学校



生徒を抱えて大変
(筋ジストロフィー)

相談



結果

特別支援学校がリフトを導入！¹⁰

② 他事業所への研修

(II) 他の知的障がい施設への研修



ノーリフティングマニュアルに基づいた研修の開催



感想

- 何歳までこの仕事ができるか不安だったが自分にも利用者にも優しい介助が知れて良かった
- 講義を見る、行う、される事でより違いが分かった。
- 支持基底面や不良姿勢の定義が知る事ができたので今後に活用したい。
- 自分の負担は相手の負担になっている事が分かった。
- 福祉用具を使う事が手を抜いてると勘違いしていた。

課題：研修で周知できても組織体制まで作れなければ普及は困難

11

(3) 3年目に向けて

この2年間の取り組みによって、介護複合施設ひばりにおけるノーリフティングの土台をしっかりと固め事ができ、ひばりを含めその周辺施設にまでもノーリフティングの意識が根付いてきたと言える。また、そのことが評価されたことで、外部にも発信する事ができた。その点についてはこの2年間の取り組みが実を結んだ結果である。

3年目はリスクゼロという最終目標に向けて、2年までの取り組みも継続していきながら、さらにノーリフティングを組織内あたりまえにするために、全職員の知識および技術レベルをさらに向上させたい。具体的には年間スケジュールを元に繰り返し研修を行い、日々の実践での経験を積み、ノーリフティングを自分のものにしていくことで各職員のレベル差をなくしていく。この1年間で最低でも2人の技術指導が出来るレベルの人材が育つように取り組んでいく。

また外部に向けての動きとして、まずはグループ内の他の介護施設や障がい者施設が抱えているリスクの抽出および排除を行い、より良い職場環境が作れるように取り組んでいく。

ご清聴ありがとうございました。